

茗溪学園中学校高等学校

Study Skills を身につけさせる教育 その22 個人課題研究発表会

教務部長 田代 淳一

1月22日に個人課題研究の発表会を行いました。

個人課題研究

こちらの誌上で何度も発表させていただいている茗溪学園の“17歳の卒論”個人課題研究。創立以来30年間継続している、高校1年の1月から高校2年の12月まで約1年間かけて、主に将来の進路に関係する分野からひとつテーマをみつけて自主研究し論文にまとめる全員必修の総合学習です。

茗溪流 Study Skills の総まとめとして位置づけていますが、実は従来、プレゼンテーション・スキルとしての要素が弱いと指摘されていました。取り組み30年目にあたる今年度、その部分の改革に着手しました。

発表会

従来は高校部集会で理系・文系・芸術系から代表1名が発表し、文化祭や説明会等で発表する機会を用意していましたが、今年度は筑波大学の協力をいただいて（本校は筑波大学の同窓会＝茗溪会が創立した学校です）大学会館を1日借り切ることができ、大講堂や国際会議場も含めた7会場を使用して43名の生徒が研究発表を行いました。（発表のプログラムは、19ページ参照）

発表者

今回の発表者はちょうど12月16日に論文提出を終えたばかりの高校2年生。29回生に当たります。提出論文の審査が発表者選定に間に合わなかったため、今回は発表希望者

を募りました。学年生徒250名の中から43名の発表希望者があり、分野別に7会場に別れ、ひとりあたり15分のプレゼンテーションと5分の質疑応答とし、各会場に高校2年生の司会とタイムキーパーをおき、筑波大学の先生方に座長をお願いしてコメントをいただくという“学会発表”形式にしました。聴衆は高校1年生と2年生の合計500名、父母や一般の方々です。茗溪学園のホームページで発表会のご案内をしましたが、当日大学会館の前を通りがかった大学関係者の方の飛び入り見学もありました。

発表

A会場は1000名も入れる大講堂で、座長に人文社会科学部研究科歴史・人類学専攻の伊藤純郎先生をお願いし、社会学関連分野の発表を行いました。

B会場は60名の会議室で同じく人文社会科学部研究科で法学専攻、弁護士でもいらっしゃる根本信義先生に座長をお願いして法学関連分野の、C会場は同規模の会議室で人文社会科学部研究科文芸・言語専攻の藤原保明先生に座長をお願いして英文学・文学・経済学関連分野の発表を行いました。

D会場は舞踊やダンスの実技発表も予定され、500名収容のホールを会場として本校の卒業生でもある人間総合科学研究科舞踊研究室の寺山由美先生に座長をお願いして、体育学・芸術・福祉学関連分野の発表を行いました。実技発表には照明や音響の調整が必要なため、前夜のリハーサルをやりこんでの発表です。

E会場は、筑波大生も滅多に入れない、国際会議用の国際会議室。人間総合科学研究科の臨床医学系で循環器内科の渡邊重行先生に座長をお願いして、医学関連分野の発表を行いました。

F会場は特別会議室を使用して座長に人間総合科学研究科学校教育専攻理科教育の大高泉先生をお願いし、工学・生物学・獣医学・歯学関連分野の発表を、G会場は会議室をお借りして座長に生命環境科学研究科地球進化科学専攻の久田健一郎先生をお願いして化学・環境学・心理学関連分野の発表を行いました。全会場の総合指導としては副学長の谷川彰英先生にお越しいただきました。

